

## 八尾市立小・中学校適正規模等審議会 第4回会議 会議録

開催年月日	平成21年6月30日（火）	
開催場所	八尾市役所本館6階 大会議室	
開催時間	午後7時00分	
出席委員	木下 会長 大野 副会長 加仲 委員 鈴木 委員 武田 委員 野村 委員	三藤 委員 市原 委員 文屋 委員 岡 委員 根屋 委員 水谷 委員
出席職員	岡村教育次長兼学校教育部長 浦上教育推進担当部長 奥田教育委員会事務局理事 杉分学校教育部長兼総務人事課長 森田学校教育部長 網中教育政策課長 橋本学校教育部長兼施設管理課長	田中学務給食課長 田中学校教育部次長兼指導課長 浅野教育サポートセンター所長 轟原人権教育課長 瀧瀬教育政策課長補佐 植田教育政策課長補佐 生田教育政策課係長

【会長】 ただ今より八尾市立小・中学校適正規模等審議会第4回会議を開催します。本日は全委員がご出席ですので、会議は成立しています。はじめに新しい委員を事務局から紹介願います。

【事務局】 今回、新たに委員を委嘱いたしました文屋様でございます。文屋委員は、小林委員にかわり八尾市中学校校長会からご選出いただいたものでございます。

【会長】 次に本日の資料について、事務局から説明願います。

【事務局】 資料確認。

【会長】 資料について、何かご質問はありませんか。

【全委員】 質疑なし。

【会長】 それでは議事に入ります。まずはじめに、先日行いました学校訪問についてご感想やご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願います。

【委員】 学校を見せていただいて、想像していたような弊害は感じませんでした。何が問題かという点、設備や教室の問題であって、大人数だから悪い、少人数だから悪いという問題ではないと確信しました。実際、学校を拝見させていただいて、設備上の制約を受けていることや運営上、苦勞されていることがよく分かりました。ただ、たくさん子どもがいると活気を帯びて見えましたが、生き生きしていると感じました。

一方、学級数の少ない学校では、集団づくりや人間関係において弊害があると言われていましたが、決してそんな姿には見えませんでした。学校規模等を審議しても意味がないと感じ、確信いたしました。

【委員】 一番鮮明に残っているのは、体育の授業の後に体操服のまま授業を受けていたことです。着替える教室がなく、汗だくのまま授業を受けていたのは非常にショッキングでした。大規模校の弊害は非常に大きく、早く何とかしてあげてほしいと思いました。小規模校で言いますと、もっと子どもがいたら、有意義に学校設備が使える、いろんな取り組みができると感じました。

【委員】 大規模な学校で女子職員のお手洗いの数が足りないというのは、すごく問題だと感じました。それと、学校によってこれだけ違いますと、人格が違って育つのかなと感じ、差の大きさにびっくりしました。やはり適正規模と言いますか、ある程度お互いが歩み寄れたらいいのかなと感じました。特に、大規模なところを何とかしてあげたいと感じました。

【委員】 子どもが多くなりすぎたり、少なくなりすぎるからだと思います。余りにも格差のある学校があるのかなと感じました。

【委員】 どのような規模の学校であっても、一生懸命教育活動が行われていますからそれぞれに良い面や課題があると思いますが、中規模の学校は恵まれていて、物理的に余裕があると思いました。大規模な学校では、女子トイレが少なく大変困っておられ、職員室が2つに分かれていて、なかなか大変だと感じました。小規模の学校では、クラス替えができないことの是非があり、プラス面もあれば、マイナス面もやや大きいのではないかと思います。子どもの教育にとって良いか、悪いかという絶対条件ではないけれども、やはり適正な規模というのはあるんだと強く感じました。

【委員】 どのような規模の学校も子どもたちは本当に楽しそうにしていると感じました。規模の適正というのは、先生方の運営上のことかなと感じました。子どもにとっては、少ないからだめ、多いからだめというのはないように感じました。ただ、中規模の学校を見た時は、我が子を通わせている学校と比べて、何と施設の格差があるのかなと思いました。

【委員】 女子職員のトイレについては、法的に決められているので即刻やるべきだと思います。一番活気があると思ったのは大規模校で、余りにも好条件を与え過ぎていいのかと感じました。また、学校規模というハード面について論議しながらも、どのように子どもの学力を伸ばしていくのかを絶えず振り返りながら論議を進めていく必要があると思いました。

もう1点は、クラブ数の説明がありましたが、いくつかの学校の文化系クラブの数が突出しています。これには何か理由があるのですか。また、運動系クラブが他の学校と比べて倍以上のところもあります。それから運動場の規模と運動クラブの数との間に関係があるのか、いずれかの機会に教えていただければありがたいと思っています。

【会長】 クラブ数の問題に関しましては、議論の中で必要なところでお願いします。ほかにございませんか。

【委員】 同じ八尾市の子どもとして、教育の機会均等という精神から除外されている子どもがいることを非常に残念に思います。例えば、体育館の利用についても学校は割り振りに苦労されています。これは子どもにとって仕方のないことでは済まされないと思います。それから、小規模な学校は子どもらしい活気が伝わってこず、静かだと感じました。

【委員】 建物の大きさ、箱の問題かなと思います。子どもが多くても、少なくとも変わりが無いというのが感想です。ただ、機会均等でいくと、大規模な学校の子どもたちはかわいそうかなと思います。体育館や運動場もあれだけのスペースではなかなか難しく、施設の大きさの問題を感じました。

【副会長】 中規模の学校を除いては、何々ができないという条件が結構あると思いました。それなりの努力やある程度の施設改善で解消できる部分はありますが、大きくなりすぎることのデメリットをかなり感じました。例えば、子どもの状態がわかるよう、教職員間のコミュニケーションができる空間ということ考えると、やはり職員室を一つにして、きめ細やかな指導を行うべきであると思います。

また、子どもの数が大きくなり過ぎてしまうと、子どもの遊び方を含めて、校外に子どもを連れ出す際に子どもの安全をどのように確保するのか、すごく制約条件として大きいと感じました。やはり、一定の規模ということ念頭に置いて議論しないといけないと思います。

【会長】 それでは次に、望ましいといいますか、これぐらいの規模のほうがいいのではないかというラインが引けるのかどうか、皆さん方のご意見をお伺いしたいと思います。

私たちが見学に行きましたのが小学校ということもございますので、まずは小学校から決めていくことができるのか、あるいは全く決める必要がないのか議論していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【委員】 仮定ですけれども、例えば大規模校に教室や特別教室がちゃんとあって、中規模校は中規模校で良くて、小規模校ではもう少し教室が少ないとか、設備がもう少しこじんまりしているという、そういう学校が3つあったと考えた時に、大・中・小どれがいいかと考えると、ソフト面の弊害さえなければ、どれでもいいかもしれない。むしろ、地域を大事にした学校や通学路を大事にした学校、校区を大切にされた学校の方が望ましいのではないかと思います。

繰り返しになりますが、大規模校の弊害は、すべて設備面での制約であって、子どもが多くて困っているのではないと思います。先ほど副会長がおっしゃったように無制限に教室数が増える、児童数が増えることを容認するものではありませんが、大・中・小の規模を考えるよりもむしろ、コミュニティや校区を大事にした方がいいのではないかと思います。

予算を使い、校舎も建てました、それでも無理なら、次は規模を小さくすることを考える、そういう流れを見誤ってはならないと思います。

【会長】 設備がちゃんと整えば、問題ないのではないかというご意見ですね。そのことに関しまして、何かご意見がありましたらお願いします。

【委員】 例えば、八尾市の小学校が全てきれいな中規模校になったとすると、それが理想なのかなと思いますが、逆に気持ち悪い気もします。あるいは、例えは悪いかもしれませんが、家族で1人っ子がいいのか、2人の子どもがいいのか、あるいは10人の大家族がいいのか、そういう問題のように思えます。

【会長】 家族構成と公的な組織としての学校を比喩的におっしゃったんですが、同じ論理で考えることはできないだろうと思います。学校規模としての問題があるだろうと思います。

それで、子どもの数に見合った設備と教員がおれば、学校はそれでいいんじゃないかということに関しましては、教師の人数が余りに多くなると、教師間の話し合い、コミュニケーションが薄くなってきます。また、先ほどもありましたが、子どもの安全の問題もあり、設備と人数がそろっていたら、それで小規模でも大規模でも同じだということにはならないと考えています。

その上で、このあたりなら望ましくて、ここは大きすぎるんじゃないかということを考えることができるのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。

審議事項としては、規模と、その規模の問題をどう解決するのかという2つがあるかと思いますが、設備の問題を考えていくに当たっても、ある程度のラインを考える必要があるかと議長としては考えています。

【委員】 八尾市の学校は、どこの学校でも建て方が同じだからほぼ同じで、大体、中規模の学校の教室数がほぼ八尾市の学校の教室数だと思います。ということは、今の校舎の規模でいくと、1学年4学級が妥当な線だと思います。

【副会長】 私も小学校の場合、最大で1学年4学級ではないかと思います。プールや図書室は大体、学校に1つであり、それを2つ以上に増やすのは難しいと考えると、1週間に1回は計画的に使うことができる条件は、小学校で言うと1学年4学級、24学級ではないかと思います。

【会長】 今、具体的に1学年4学級という数字が出てきているんですが、他にご意見はありませんか。

【委員】 子どもたちが将来、どういう学校で勉強したんだ、育ったんだと、そのことに後悔をしない、満足している、こういう印象を将来にわたって持たせる学校というものを私は考えています。また、子どもたちが切磋琢磨して育つことができたんだということをどのように設定していくのか考えています。

子どもたちの人間関係を最低限保障できる学級数は1学年3学級だと思います。2学級では児童間の交流ができないので。学力の問題だけではなく、人間形成の上で、あの学校で学んで良かったと将来思える、満足できる学校はどのような規模なのか、こういうふうと考えてはどうかと思います。

【会長】 学校教育の質の問題というのはソフト面もたくさんあって、規模、設備だけで決まるものではないというのはおっしゃるとおりですが、そういう学んで良かったと思える条件の1つとして、規模の問題をぜひお考えいただけたらと思います。また、今、最低限3学級という話ですが、まずは小学校の上限についてご意見をお願いしたいと思います。

【委員】 上限は4学級ぐらいだと思いますが、八尾の場合、2小1中という形になりますので、そのまま中学校へ行ったら、中学校は1学年8学級になります。そうすると中学校が大きくなりすぎるのではないかと思います。

【会長】 ここでの議論は、まず小学校は小学校で考えてみて、中学校はその倍になるのかどうかということも含めて、議論は中学校のところでしたいと思います。小学校から入ったのは、前回の議論もありますし、学校を見たこともあるということで、小学校の方から入らせていただいています。今、小学校の上限が大体、4学級という数字が出ていますが、このことに関しまして、よろしいでしょうか。

【全委員】 異議なし。

- 【会 長】 そうしましたら、一旦、小学校の上限を1学年4学級で念頭に置きまして、下限ですね。今、3学級がいいのではないかというご意見が出ていますが、いかかでしょうか。
- 【委 員】 1学級にならないように2学級がいいと思います。3学級を守るのはしんどいと思います。最低ラインは2学級がいいのではないかと思います。
- 【委 員】 リミットと考えると、もっと許容範囲を広くすべきだろうし、理想と考えればピンポイントになると思います。あるいはガイドラインで考えると、数字の範囲が違ってくるのではないかという気がします。
- 【会 長】 私が「適正」ではなくて「望ましい」という言い方で言おうとしていることから1つの指針ですね。理想でもないだろうし、基準でもない。一つの指針として、学校が教育をしていく上でのある程度のラインとして考えたいと思いますが、いかがでしょうか。
- 【委 員】 指針、ガイドラインと考えるのであれば、2学級から4学級となってくるのではないかと思います。
- 【会 長】 今、具体的な数字で2学級から4学級が望ましいのではないかと出ていますが、ご意見はございませんか。
- 【委 員】 それが一番望ましいとは思いますが、私は35人を1学級として、2学級から4学級が望ましいと思います。
- 【会 長】 学級の定員数というのは議論の1つなんですけど、そのことについてはここで議論するものではありませんので、よろしくお願ひします。それでは、小学校の学級数ですが、1学年2学級から4学級が望ましいという形で一旦、意見をまとめたいと思いますが、よろしゅうございますか。
- 【全委員】 異議なし。
- 【会 長】 何度も申し上げていますが、適正規模を「望ましい」と言いかえていますが、どの学校も先生方が尽力され、子どもたちは元気に学んでいるわけで、その学校規模でなければだめだという話では決してありません。いろんな要素が絡まっておりますし、単に設備と人数の問題だけでもありませんので、その点は重々踏まえた上で、望ましい規模として、小学校は12学級から24学級ということで、一旦、まとめさせていただきます。
- それでは、次に中学校の規模について考えたいと思います。先ほど、2小1中とすれば、中学校のほうが大きくなりすぎるというご意見が出ておりました

た。そういう意味で、中学校は教科担任制の問題等があり、前回会議でもかなり詳しく説明もあったかと思しますので、小学校の学級数をベースにせずに、中学校としてどういう規模がいいのか、お考え願えればありがたいと思います。

【委員】 中学校の学校長として1学年何学級であれば一番経営しやすいかという、4学級です。1学年4学級の学校でしたら、時間割りや教員の配置等がスムーズにいきます。例えば、体育や技術家庭の場合は1・2組の合同の女子と合同の男子で授業をします。男女共修の場合もありますが、4学級が最も組みやすいです。3学級となりますと、どうしても時間割りの組み合わせがうまくいきませんし、教員の数が足りなくなります。

また、中学校では生徒指導上の課題がたくさんあります。生徒指導上の課題を克服しなければ、日々の授業が成立しなくなるという課題を中学校は持っています。1学年8学級の学校の生徒指導の課題は、4学級の学校の倍になります。このように、教育課程編成上の問題、生徒指導上の課題を考えたら、私は4学級が一番望ましいと思います。上限は、6学級かなと思います。それは、子どもにとっても同様で、学校生活が落ちついてできる条件かなと考えています。

【会長】 中学校は、教科担任制あるいは男女別の授業等で、偶数クラスが望ましく、最少4学級というご意見です。教科担任制ができる数ですね。これより少なくなると、教科担任の配置が難しくなるというお話です。

また、上限は6学級が適切ではないかとおっしゃっていますが、先ほどの小学校の件で言えば、8学級になります。8学級になると生徒指導上の問題があるということですが、他にご意見はありませんか。

【委員】 今の中学校の現状を見たことがないし、自分の知識、経験がないので、判断しろと言われても分かりかねるというのが正直な意見です。

【委員】 2つの小学校が1つの中学校になるんですね。

【委員】 そういうところが多いです。1小1中が2つ、3小1中が1つ、あとは全て2小1中です。

【委員】 これは今、決めなければいけないのですか。

【会長】 決まればいいなとは思っています。

【委員】 例えば、小学校が2学級から4学級だから、中学校は最大8学級となると、それは最後まで8なんですか。方策を考える中で、やはり小学校は3学級の

方がいいのではないかとになったら、中学校は6学級になります。今、決めなければならないのですか。

【会 長】 本日の議題が学校規模を決めるという議題で、できれば決めることができればいいと考えています。先ほどの件ですが、八尾市の小中学校が全て2小1中だったら話は簡単なんですけど、そうではありませんので、小学校と中学校の規模を大きい方にそろえたらうまくいくんだということにはならないと思います。そこで、中学校は中学校で考えたらいいのではないかとということで、この議論をさせていただいています。

【委 員】 小学校が決まったら必然的に中学校は決まるわけですね。

【会 長】 現実的には、その数になっていきますけれども、ここでは、望ましい規模はどのような規模なのかを考えたいと思っています。

【委 員】 2小1中や1小1中は考えなくてもいいんですか。

【委 員】 小学校のことと中学校のことは切り離して考えるということですか。

【会 長】 そういうことです。というのは、例えば小学校の上限が4学級ですと、仮に3小1中だったら、中学校の1学年が12学級になります。12学級になった時にこれでいいのかということになれば、やはり大きすぎるんじゃないかと思います。小学校は4学級でいいけれど、中学校は何か方策が必要になります。したがって、小学校と中学校は別に考えていいのではないかとというのが今日の議論の進め方です。

【委 員】 例えばの話、小学校が4学級で2小1中であれば、中学校は8学級になります。単純な話です。それを先ほどの話では、6学級だったらいいけれども、8学級はしんどいというお話でした。そこでこれは思いつきなんですけど、3小2中という判断はできないですか。校区編制の問題が伴いますが、3小2中だってあり得るのではないかと思います。

【会 長】 2小1中や3小2中というのは、次の段階の話ではないかと思います。今日は、次の段階の話を考えられるように、望ましい規模はどの辺なんだというラインを引こうという話です。今のお話は、次の方策の中で出てくる議論かなと思います。

【委 員】 会長がおっしゃるのはよく分かります。次の論議の時に、具体的にどうするのかというのが、今おっしゃった話になってくるかと思います。

現実には、1学年3学級の小学校の場合、私学に進学する子どもたちが毎年

何%かありますので、3学級と3学級の小学校を卒業した場合、中学校は5学級になることが多いです。

それから、今おっしゃった3つの小学校から2つの中学校へという形式をとっている市町村があります。ある市では1つの小学校から5つの中学校に分かれているところがあります。これははっきり申し上げて弊害の方が大きいと思います。小学校からばらばらの中学校に進学すると連携がとりにくいという弊害が出ます。良い面もあるでしょうけれども、弊害の方が大きいのではないかなと危惧します。

また、3小1中の中学校では、過去に職員室を完全に2つにしなければならず、生徒指導上の課題がたくさんありました。大きすぎるのはよくないと思います。

【会 長】 小学校と中学校は別個に考えようということで、中学校の1学年は6学級が上限ではないかというお話が出ていますが、大体、そのラインでよろしゅうございますか。

【全委員】 異議なし。

【会 長】 事務局から、教科担任制の数字を以前に出していただいたと思いますが、そのことで6と8の違いが説明できればお願いします。

【事務局】 ただ今議論になっております中学校の1学年が6学級がよいのか8学級がよいのかという点につきましては、教科担任制の問題というよりは、生徒指導上の問題であると考えています。また、教科担任制の観点から言いますと、全ての教科担任がそろふ条件が1学年4学級、12学級以上であり、委員ご指摘の意見と事務局も同じ考えでございます。

【副会長】 中学校でも子どもたちに体験的な学習を保障しなければならないと思います。その意味では、やはり少なめの人数にした方がいいかと思います。それは、小学校よりは1学年の数が多いにしても、例えば1学年が300人ということになると、例えば自然体験をさせようといっても受け入れてくれる施設の数が限られますし、施設を分けた場合、体験の質に違いが出てくるなどの問題があるかと思います。そうなると、240人、多くても6学級にした方がいいのではないかと思います。

【会 長】 それでは、中学校に関しまして、12学級以上18学級以下ということで望ましい規模を決めることができたらと思っておりますが、早過ぎるというご意見等があれば、お願いします。

【委員】 中学生を持つ親として思うことは、子どもの安全面やいろいろな部分を考えますと、やはり4学級から6学級が望ましいと思います。また、私が中学生だった時のことを考えると、その辺が一番望ましいし、中学校の校舎的にもそれぐらいでつくられているように感じますので、八尾市ではそれが望ましい状況かなと思います。

【委員】 同じ意見ですが、4学級から6学級がいいと思います。私も八尾市内の中学校を卒業した者ですが、どこの中学校も同じような作りだと思います。4学級から6学級だとちょうどいいのかなと思います。私たちの時代は、7学級、8学級でしたので、窮屈さというか、設備も行き届かないし、やはり先生方の目の行き届きも違うのかなと思うと、やはり4学級から6学級が今の八尾市の中学校には一番いいのではないかと思います。

【会長】 今、小学校、中学校に関しましてご議論をいただきました。それで、小学校につきましては、12学級以上24学級以下が望ましい学校、中学校は12学級以上18学級以下が望ましい学校と言えるだろうと。ですから、小学校で言えば、25学級以上は大規模校、11学級以下は小規模校かなと。中学校も同様に、19学級以上は大規模校、11学級以下は小規模校というふうにとまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【会長】 ありがとうございます。それでは、学校規模に関しましては、このラインで考えていきたいと思います。それでは次に、小規模校と大規模校について、どのような対策を基本ラインとして出すのかというところが今後の課題となります。そこで、学校見学のことも踏まえまして、皆様から問題があると指摘のあります大規模校をどうしたらいいのかということをお次回から考えていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【副会長】 今日の会議の流れを見ている限り、緊急性が高いという意味では、やはり大規模校の問題かなと思いますので、会長の意見に賛成です。

【会長】 それでは、次回からは大規模校について議論させていただいてよろしいでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【会長】 それでは、次回の審議会では大規模校の方策について審議いたします。では、事務局から、連絡等をお願いします。

【事務局】 日程提案。

【会長】 ただ今、提案のありましたように、次回会議を7月27日ということでよろしいでしょうか。本日の案件はこれで済みましたが、皆様方から何かご意見等はありませんか。

【委員】 クラス数は決まりましたけれども、今後、2小1中、1小1中の部分も入っていくということですね。中学校の現状がどうなの分かれればいいかなと思います。今までは小学校の話ばかりでしたから、中学校の校舎がどういうふうな編制になっているのか分かれればありがたいです。

【会長】 今回、学校訪問を行いましたので、訪問した学校について極めて具体的にこの学校をどうするのだというお話が出ていますが、ここでの議論のベースは一般論です。大規模校や小規模校にどういう施策があり得るかという一般的な方針、そこが議論のベースだと考えています。個別の学校について具体的にどうしていくのかという対策をとるのは、別のレベルの話です。

しかしながら、先ほども申し上げましたように、2小1中という枠組みを変えるのかとか、校区の問題をどうするんだとか、そういう話は出てくることだと思います。そういう議論を十分にしていきたいと思っています。その意味で、資料が必要なら、事務局へおっしゃっていただければ、準備していただけると思いますので、よろしくお願いします。

【委員】 一般原則として、思っていることを言ったらいいんですか。

【会長】 そうです。次回以降、そういう議論ができればと思っています。

【委員】 中学校の話もしていいわけですか。

【会長】 そうです。次回の議論がどのあたりになるかということがおわかりいただけましたでしょうか。それでは、これで本日の会議を終わります。ありがとうございました。